

平成27年度から被災者の生きがいに資する活動を支援する「心の復興」事業を新たに実施。52団体の応募から22団体の一次採択を決定。全体で7500人(仮設住宅居住者約5500人)が参加するプロジェクトを推進

・平成27年度「心の復興」事業の予算額:1.1億円 ・2次公募は5月に実施予定

## 「イシノマキ・ファーム事業&イシノマキマルシェ」プロジェクト【農業】

【実施地域】宮城県石巻市  
【実施主体】NPO法人Switch  
【参加者数】170人  
うち仮設住宅居住者150人  
【実施内容】石巻市内で借り上げた農地(イシノマキファーム)で仮設住民が農作物を栽培し、収穫した作物を販売所(イシノマキマルシェ)にて定期的に販売する。  
参加すること自体がリカバリー(心の復興)につながる仕組みを構築する。



農業実習の様子



イシノマキファーム事業予定地

◎心の農園プロジェクト

◎仮設住宅居住者の生きがいをづくりとしての農園及びものづくり支援事業

◎食でつなぐ人と地域n山田2015

◎被災地におけるモノづくり教室と食事交流会を通した心のケア事業

◎のびやかで前向きな心を育てるミシンの学校

◎ベテランママの会高齢女性サロン活動

## 「いま、ここで生きている」展 作品展覧会開催計画【ものづくり】

【実施地域】岩手県大船渡市、宮城県名取市、福島県相馬市等  
【実施主体】ARTS for HOPE  
【参加者数】650人  
うち仮設住宅居住者480人

【実施内容】岩手、宮城、福島の仮設住宅及び災害公営住宅入居者を対象とした「ものづくり」のワークショップを行い、その成果物である作品を広く紹介する展覧会を開催する。展覧会出店に向けた作品制作を通して、被災者の生きがいに資し、各地に居住する被災者同士が同じ目標に向かって心をひとつにして、心の交流を図り、心の復興を促す。



ワークショップの様子1



ワークショップの様子2

## 心の復興 22のプロジェクト

【一次採択額計6,230万円】

全体参加者 約7500人

うち仮設住宅居住者約5500人

◎市町村仮設住宅対抗「男の料理コンテスト」

◎ふっくら布ぞうりの会による、布ぞうりを通した生きがい支援&経済的支援

◎東京近郊の県外避難者による「活力発信」プロジェクト

## 福島の伝統芸能復興と存続継承していくための基盤作り事業【伝統芸能】

【実施地域】福島県南相馬市  
【実施主体】民俗芸能を継承するふくしまの会  
【全体参加者】650人  
うち仮設住宅居住者450人  
【実施内容】福島県指定文化財「江垂日吉神社のお浜下り」の行事のうち、民族芸能の部分の復興に取り組む。  
仮設住宅居住者450名程度のほか、多くの近隣住民の参加が見込まれ、地域の結束・融和と被災者の心の復興を図る。



前回の行事の様子

◎南三陸人と人のつながり、まちづくり参加を通じた生きがい創出事業

◎釜石・大槌大学プロジェクト

◎子どもとの交流と学びを通じたコミュニティづくり事業

◎ふくしま「人の駅」創生事業～「語り人」活動を通じた街中交流を目指して

◎災害公営住宅入居者の心と体の栄養教室

◎大熊町民によるまちづくりワークショップ

## 「いるだけ支援」(仮設住宅拠点化生活支援事業)【世代間交流】

【実施地域】福島県浪江町(福島市)  
【実施主体】福島大学災害ボランティアセンター  
【全体参加者】1040人  
うち仮設住宅居住者1000人

【実施内容】大学生が仮設住宅に居住しながら声かけや引きこもり防止に寄与する活動を行う。ミニサロン、レクリエーション、花植えなど住民とのふれあいを行うとともに、夕涼み、芋煮、望年会などの住民親睦会を行う。  
住民と調和しつつ世代間交流を行うとともにコミュニティを活性化し、生活者の生きがいを創る。



大学生の訪問の様子